

開館10周年記念

# ピサロと カミーユ・ Camille Pissarro Patriarche de la modernité

# 印象派

永遠の近代



《昼寝、エラニー》1899年 個人蔵

平成 24 年 6 月 6 日（水）～8 月 19 日（日）

休 館 日：月曜日 ただし 7 月 16 日（月・祝）は開館し翌 17 日（火）休館  
開館時間：10：00－18：00（金・土曜日は－20：00）、入場は閉館 30 分前まで  
会 場：兵庫県立美術館 3 階 企画展示室

フランス印象派と言えば、まずモネやルノワールの名前が浮かびます。しかし彼らは計 8 回の「印象派展」に、実は半分ほどしか参加していません。

個性あふれる印象派の面々を最年長者として忍耐強くまとめ、8 回の展覧会に欠かさず出品した唯一の画家が、カミーユ・ピサロ（1830－1903）です。ファン・ゴッホやスーラなど新世代にも慕われ、印象主義のためには新奇な手法を取り入れることも恐れませんでした。

自然の風景や人々の暮らしを描いたピサロの穏やかな作品には、19 世紀という激動の時代における都市と田園の対比や変貌する自然観など、同時代の様々なテーマも見てとれます。

兵庫県立美術館の開館 10 周年を記念し開催する本展では、国内外に所蔵されるピサロ約 90 点に、モネやルノワールも加え 100 点以上を展示。印象主義の探求に生涯を捧げたピサロの作品を軸に、近代の絵画、そして社会の原点を、あらためて見つめ直します。

## カミーユ・ピサロとは？

1830 年生まれ、フランス印象派の主要メンバーの一人。全 8 回開催された「印象派展」に唯一、欠かさず参加し、生涯を通じて印象主義の絵画を探求した、「真の印象派」と言うべき人物。印象派の最年長者でもあり、個性あふれるメンバーを忍耐強くまとめた「長老」的存在。

印象派の中でも、モネやスレーと並び、風景画を得意とした。同時代のある批評家は、この 3 人を比べ、ピサロが「もっとも真実味にあふれて正直」であると評している。

郊外や都市の何気ない風景を、堅実な画面構成でとらえたピサロの作品からは、自然や人々の息づかいが感じられる。



カミーユ・ピサロ、ポントワーズにて、1875年頃

本物の印象主義とは、客観的観察の唯一純粋な理論となり得る。それは、夢を、自由を、崇高さを、さらには芸術を偉大にするいっさいを失わず、人々を青白く呆然とさせ、安易に感傷に耽らせる誇張を持たない。

(カミーユ・ピサロ、1883 年 2 月 28 日付リュシアン・ピサロ宛の手紙)

## 本展の見どころ

### ・日本で約 30 年振りの本格的なピサロ展

印象派の主要画家の一人であるピサロの作品は、日本でも多くの展覧会に出品されています。しかし意外なことに大規模な回顧展の機会は少なく、1984 年に東京、福岡、京都で開催されて以来、本展が約 30 年振り、2 度目の本格的なピサロ展となります。

### ・「真の印象派」ピサロの魅力をあますところなく紹介

出品作品の中核を成すのは、国内外の著名な美術館等が所蔵するピサロ作品約 90 点。初期から晩年までを網羅し、生涯を懸けて印象主義を探求した「真の印象派」ピサロの歩みを紹介します。

### ・幅広い交友関係にも注目

ピサロの人柄と作品は、モネやルノワールといった印象派の仲間たちはもとより、多くの若い世代の画家たちをも惹きつけました。セザンヌ、ゴーガン、ファン・ゴッホなど、名だたる天才たちが、ピサロを慕い、大きな影響を受けています。本展には、これらピサロと交流のあった画家たちの作品も展示されます。

### ・現代へのメッセージピサロを通じ「近代」を見つめ直す

ピサロが生きた 19 世紀は、絵画も社会も大きく変化し、「近代」の基礎が築かれた時代です。21 世紀を迎え、「近代」に端を発する諸問題は、解決されるどころか、ますます混迷を深めています。自然と人間を愛し描いたピサロの作品は、「近代」の原点を今一度見つめ、絵画はもとより人間や社会について感じ考えるきっかけともなるでしょう。

## 出品点数

カミーユ・ピサロによる油彩画、版画、素描等 89 点

モネ、ルノワール、ファン・ゴッホ等、関連作家の作品 17 点、計 106 点を展示予定

## 章構成

カミーユ・ピサロの生涯に沿い、全5章で構成します。

### I 孤島からの漂流ーパリへ 1852ー1870年

カリブ海に浮かぶセント・トーマス島に生まれたピサロは、画家となるべく故郷の島を脱出し、ベネズエラの首都カラカスを経て芸術の都パリへ向かいます。コローやクールベら先達に学び、またモネら若い仲間と交流を深めつつ、画家としての道を歩み始めたピサロの初期作品を紹介します。

出品点数：ピサロ 12 点、他作家 5 点

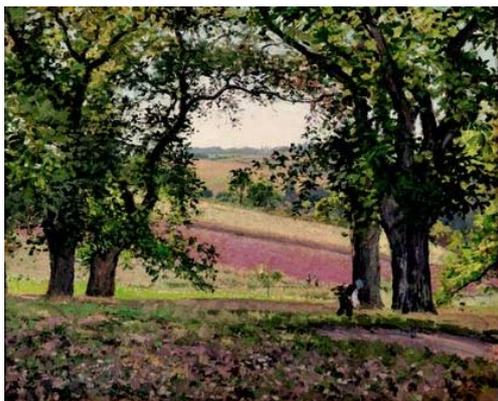


《エルミタージュの眺め、グラット=ロックの丘、ポントワーズ》  
1867年頃 アルプ美術館/ロー・コレクション

### II サロンから印象派へ 1870ー1875年

1874年、ピサロはモネやルノワールとともに、サロン（官展）の外に発表の場を求め、自主的なグループ展を立ちあげます。ピサロは明るい光と空気に満たされた郊外の風景画を出品しました。この第1回印象派展の前後、ピサロが仲間たちとともに追求した新しい絵画表現を紹介します。

出品点数：ピサロ 11 点、他作家 3 点



《オニーの栗の木》1873年頃 第1回印象派展（1874）個人蔵



《ポール=マルリーのセヌ河、洗濯場》1872年  
第4回印象派展（1879）オルセー美術館  
©RMN(Musée d'Orsay)/Thierry Le Mage

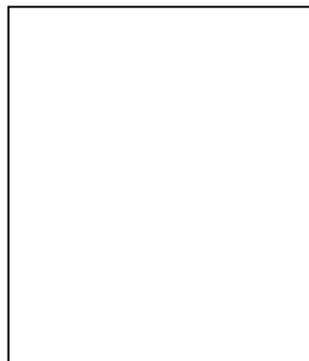
### III 印象派 風景から人物へ 1875ー1883年

1870年代後半になると、ピサロは風景から人物へと主題の重心を移すようになります。油彩画の筆づかいはより多様さを増し、また版画作品でも様々な技法で光の表現が追求されました。印象派展を舞台に、ピサロが主題と画風の双方で表現を広げてゆく時期の作品を紹介します。

出品点数：ピサロ 18 点、他作家 1 点



《ライ麦畑、グラット=ロックの丘、ポントワーズ》1877年  
静岡県立美術館



★《立ち話》1881年頃 第7回印象派展（1882）  
国立西洋美術館 松方コレクション

#### IV 新印象主義、あるいは「影」へのまなざし 1883—1896年

1880年代半ば、ピサロはスーラやシニャックらと点描技法に取り組むようになります。ピサロは彼らの新印象主義こそ印象主義の発展型と考えていたのですが、この考えは旧来の印象派の仲間たちとの亀裂を大きく広げる結果となりました。印象派展もついに幕を閉じた、転換期の作品群を紹介します。

出品点数：ピサロ 25 点、他作家 5 点



《キューガーデンの大温室前》1892年  
公益財団法人 吉野石膏美術振興財団

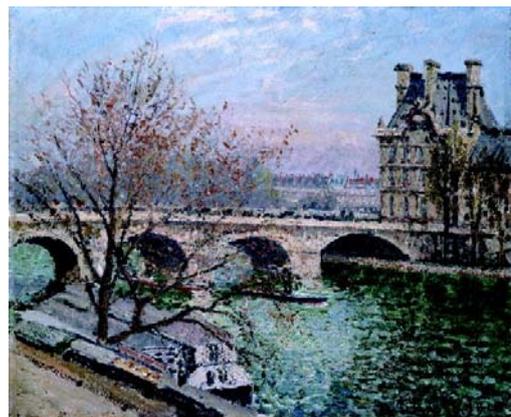
#### V 印象主義の再生—「影」の反転 1896—1903年

やがて新印象主義の限界に気づいたピサロは、晩年にはふたたび自由な筆づかひの作風に戻ります。そして同じ景色を異なる光のもと描く連作という形式で、印象主義の探求を深めてゆきました。ねばり強く印象主義を追求しつづけたピサロ晩年の到達点を紹介します。

出品点数：ピサロ 23 点、他作家 3 点



《チュイルリー公園の午後、太陽》1900年  
サントリー・コレクション



《ロワイヤル橋とフロール館、曇り》1903年  
ブティ・パレ美術館、パリ

主 催 後 援	兵庫県立美術館、産経新聞社、神戸新聞社 フランス大使館、公益財団法人伊藤文化財団、兵庫県、兵庫県教育委員会、 神戸市、神戸市教育委員会、関西テレビ放送、サンケイスポーツ、夕刊フジ、 サンケイリビング新聞社、サンテレビジョン、FM802、ラジオ大阪、 ラジオ関西、Kiss FM KOBE
特別協賛 協 賛 企画協力 協 力 備 考 観 覧 料	大阪芸術大学グループ 大和ハウス工業株式会社 (有) アルティス エールフランス航空、ホテルオークラ神戸 本展は、政府による美術品補償制度の適用を受けています。 一般 1300(1100)円、大学生 900(700)円、高校生・65歳以上 650(550)円、中学生以下無料 ※( )内は前売料金および20名以上の団体割引料金(高校生・65歳以上は前売なし) ※障害のある方とその介護の方(1名)は各当日料金の半額(65歳以上除く) ※割引を受けられる方は、証明できるものを持参のうえ、会期中美術館窓口で入場券をお買い求めくだ さい。 ※コレクション展の観覧には別途観覧料金が必要(本展とあわせて観覧される場合は割引あり) □特別展「バーン＝ジョーンズ展」(9月1日～10月14日)とのお得な共通チケットを当館窓口にて販売 □前売券発売場所：チケットぴあ、ローソンチケットほか京阪神の主要駅、主要プレイガイド

## 関連事業

### (1) 記念講演会

#### ■有木宏二(宇都宮美術館学芸員・本展監修者)

6月24日(日) 14:00-15:30 ミュージアムホール(定員250名)  
先着順 聴講無料(要観覧券)

#### ■中野京子(作家・ドイツ文学者。早稲田大学講師。)

著書に『怖い絵』『名画の謎』『印象派で「近代」を読む』など  
7月22日(日) 14:00-15:30 ミュージアムホール(定員250名)  
当日12時より整理券配布予定 聴講無料(要観覧券)

### (2) 学芸員による解説会

6月23日(土)「実録!?印象派人間模様」  
7月14日(土)「ポントワーズ百景」  
7月28日(土)「印象派と絵画の革新」  
8月11日(土)「ピサロ晩年の大連作」  
16:00-17:00 レクチャールーム(定員100名) 先着順 聴講無料

### (3) ミュージアム・ボランティアによる解説会

会期中の毎週日曜日 11:00-11:15  
レクチャールーム(定員100名) 先着順 聴講無料

### (4) おやお解説会

7月7日(土)  
13:30-14:00 レクチャールーム(定員100名) 先着順 聴講無料

### (5) こどものイベント「空を描こう!光を描こう!」

8月4日(土)、8月5日(日) ※両日とも同内容です  
10:30-12:30 アトリエ2にて 小学3年～中学3年対象 定員30名  
要事前申込・参加費 こどものイベント係 TEL 078-262-0908

### (6) ピサロ 182歳のバースデー!!

7月10日(火) ピサロの誕生日にスペシャル企画を予定。詳しくは当館HPにて。

## お問い合わせ先

---

兵庫県立美術館 〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目1番1号

ホームページ<http://www.artm.pref.hyogo.jp>

【企画内容に関すること】担当学芸員 江上 ゆか／鈴木 慈子

tel: 078-262-0909 (学芸直通) fax: 078-262-0913

【取材・写真提供に関すること】営業・広報グループ

tel: 078-262-0905 (営業・広報直通) fax: 078-262-0903

## 広報用画像について

---

このプレスリリースに掲載されている画像データをプレス掲載用にご用意しております。別紙の申込書をご使用ください。

**★7《立ち話》の図版は、インターネットでの掲載、トリミング、図版に文字のせができません。ご了承ください。**

## カミーユ・ピサロと印象派

## 営業・広報グループ 宛

**F A X ( 0 7 8 ) 2 6 2 - 0 9 0 3**

ご希望の写真の番号に○をつけてください。後日お送りいたします。また、読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで)もご用意しております。ご希望の場合は、ご請求ください。

番号	作家名・作品名・制作年・素材・その他(クレジット等)
1	《昼寝、エラニー》1899年 個人蔵
2	カミーユ・ピサロ、ポントワーズにて、1875年頃
3	《エルミタージュの眺め、グラット=コックの丘、ポントワーズ》 1867年頃 アルプ美術館/ロー・コレクション
4	《オニーの栗の木》1873年頃 第1回印象派展(1874) 個人蔵
5	《ポール=マルリーのセヌ河、洗濯場》1872年 第4回印象派展(1879) オルセー美術館 ©RMN(Musée d'Orsay)/Thierry Le Mage
6	《ライ麦畑、グラット=コックの丘、ポントワーズ》1877年 静岡県立美術館
★7	《立ち話》1881年頃 第7回印象派展(1882) 国立西洋美術館 松方コレクション
8	《キューガーデンの大温室前》1892年 公益財団法人 吉野石膏美術振興財団
9	《チュイルリー公園の午後、太陽》1900年 サントリー・コレクション
10	《ロワイヤル橋とフロール館、曇り》1903年 プティ・パレ美術館、パリ

上記図版を媒体掲載される際には、上記作品名、制作年等を必ず記載してください。

★7《立ち話》は、インターネットでの掲載、トリミング、図版に文字のせができません。ご了承ください。

貴社名			
媒体名	新聞・雑誌・ミニコミ TV・ラジオ・インターネット		
ご担当者名			
ご住所	〒		
電話番号		F A X	
メールアドレス	@		
URL			
掲載・放送予定日			
写真到着日希望			
読者・視聴者プレゼント用招待券(最大10組20名まで 本展を媒体でご紹介いただける場合に限り)	組	名	希望
メールマガジンをお持ちですか?	はい ・ いいえ		
メールリストをお持ちの場合、当館の展覧会・イベント情報等を送信していただく事は可能ですか	可 ・ 不可		

- ※ 写真データ使用は、本展覧会の紹介用のみとさせていただきます。それ以外での使用はできませんので、ご了承ください。
- ※ 本展に関する記事をご掲載いただきました際には、お手数ですが、掲載誌・紙または記録媒体(VTR/DVD)などを、下記宛にお送りくださいますようお願い申し上げます。
- ※ 本展覧会会場の取材、撮影をご希望の場合は、上記までご連絡ください。事前にご連絡のない取材・撮影はお断りいたします。